



どろ 泥

ちばしげき しょうがくかん
サッカー作 千葉茂樹訳 小学館

五年生のタマヤの右手は、チクチクする赤いぶつぶつにおおわれていた。きのう森で不気味な泥にさわったせいちがいない。顔に泥がかかったチャドは行方不明だ。

世間から遮断された谷にあるサンレイ・ファームは、DNAを操作して創りだした微生物からエネルギーを製造している。その微生物は繁殖して、倍々にふえつづけるのだ。

増殖する危険な泥からのがれながら森をさまよう。命にかかわる事件にまきこまれた子どもたちの友情と成長を魅力的に描く。

